

令和元年度 学校自己評価システムシート (大妻嵐山中学校・高等学校)

目指す学校像	○「世界につながる科学的な心、表現する力」を育てるGlobal Eco Science School ○建学の精神「学芸を修めて人類のために」貢献できる高い意欲と学力を身につけた女性を育成する学校 ○大妻コタカ先生の教育理念に基づいた人格の陶冶をめざす学校	※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。 (令和元年度の評価については、学校評価懇話会を開催できなかったため、各評価委員から評価等を受けた日とした。)
重点目標	1 世界につながる科学的素養を育てる 2 世界につながる表現する力を育てる 3 世界につながる心と感性を育てる 4 世界につながる進学力を育てる 5 組織的な広報活動を展開し学校の魅力を伝え、入学者を確保する	Aはほぼ達成 (80%以上) B概ね達成 (60%以上) C変化の兆し (40%以上) D不十分 (40%以下)

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。
 ※ 達成度は、方策の評価指標に対する評価。

年度		学校自己評価		年度評価		学校関係者・第三者評価	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	授業では、よく話を聞き、ノートをきれいに整理するなど教育活動全般に対して何事にも真面目に取り組んでいる。しかしながら、全般的な受け身の姿勢が顕著であり、自発的な学習姿勢及び意欲に欠けることがある。こうした中で大妻学院中期経営計画に基づき「学びが続き続ける」の育成を目指した次の課題に取り組む。	○学力の向上 ○主体的な学習姿勢の向上 ○授業力の向上	○外部模試、定期考査、学力アセスメント等客観テストの分析と検証。 ○学年、教科単位での計画的な課題付与により予習・授業・復習の学習サイクルの確立を目指す ○英語検定等への挑戦～中学校卒業時準2級、高校卒業時2級を目標～ ○年間を通じたアクティブラーニング研修など授業力向上に向けた研修会の実施 ○ICTを積極的に活用した授業の定着の推進 ○授業間で授業見学の実施と研究協議の開催 ○管理職による授業観察、保護者等への公開授業の実施 ○国際交流・国際理解の積極的推進～海外留学、海外研修、海外への学校との交流事業、留学生受け入れなど～	○学力が上がったか ○生徒の家庭学習時間が増加したか ○英語検定の取得率が上がったか ○生徒間の授業評価が向上したか ○教員の授業見学や研究協議が活発に行われたか ○AIの導入やICTの活用が有効に機能していたか ○国際交流事業等の充実が行われたか	○全体的な学力としては大きな変化は見られないが、上位層と下位層との開きが大きくなってきている ○学習時間は課題の付与やクラッシュ等の活用によってわずかではあるが増えつつある ○英検の取得率は、高1において入学時に60%程度であったが、この一年で90%を超えるまでに向上した。また、高校2年生では準一級4名、二級26名、準2級71名と着実に実績を積み上げてきている ○授業評価では、全体的にはわずかではあるが向上しているもの各教科や個人によって開きが拡大しつつある ○年度の後半に多くの教員が公開授業を実施し、学校授業公開を計画し、公開授業に基づく授業研究協議をフロンティアラーのもとで実施する予定であったが、感染症防止拡大による臨時休校措置で中止となってしまう ○授業形態においては、かなり工夫改善が図られてきている。AIやICTの活用については定着しつつある。スタディサプリやロイロなどの活用に向けた教員研修を行うなど活用拡大に向けた取り組みが行われていた ○国際交流については、今までスカパフ交流をしていたインドネシアのBPIが来日し学校交流へと発展できた。また、今年度サランガニンス修学旅行の中止を受けて急遽、ハワイ修学旅行へと変更したものの現地の高校及び大学生との交流など貴重な交流を実施することができた	B	○個々の学力に応じた指導を行うためにも、個別最適化を目指した取り組みをさらに実践していくことが必要である ○今後スタディサプリ、クラッシュ、ロイロなどを活用した学習環境の整備に努めて活用を拡大していくことが必要である ○英検の取得率については学年での効果的取り組みを共有して次年度に活用していくことで実績を積み上げていく ○今後も授業公開及び研究協議並びに教員研修の機会を確保し、授業力向上に向けた取り組みを推進していく ○海外修学旅行も3年目を迎えるため一層の内容充実を当該学年とともに進めていく
3	多くの生徒は基本的な生活習慣を身につけ、思いやりや心と感謝の気持ちをもって日常生活を送っている。こうした心や在り様が意欲開いた自らのモチベーションを高めることにつながっていくことが求められているため、次の課題に取り組む。 ①大妻コタカ先生の教えに基づき礼法指導の充実 ②大妻嵐山生としての自覚と責任の醸成 ③SNSに係る指導 ④ソーシャルスキルの向上	○自主性の育成 ○高い規律性の確保 ○協働力の育成	○大妻コタカ先生の教えに基づき、礼法指導、道徳教育、論語教育を実施して大妻精神を涵養する。 ○全教職員による挨拶の励行、身だしなみ指導、時間厳守指導を徹底する。 ○生徒会本部を中心とする大妻付属校との交流事業や各種委員会活動など生徒会活動を活性化できた。 ○生徒会行事、学校行事を通し他者との協働力を育成する。 ○生徒の良さを見出し、伸ばしていく。 ○多様な交流や体験の機会を増やし、行動特性としてのスキルを高めていく。 ○本校のメディアポリシーに基づいた指導を徹底する。	○挨拶が日常的にしっかりとできるようになったか ○清潔な身だしなみや時間厳守ができていたか ○生徒会活動、学校行事が活性化できたか ○ハガキ賞状が、有効かつ適切に出すことができたか ○ハガキ表彰については大きな行事に特化してしまい、日常的活動に対してきめ細かく対応することができなかった ○嵐山まつりに代表される地域行事への参加や福祉施設などへのボランティアには部活動単位で参加している。また、今年初めて越生ニューサンピアとコラボレーション企画LSR活動も取り組んだ。海外との交流ではインドネシアのBPI本校校との交流、修学旅行ではハワイの現地高校及び大学生との交流が盛大に行われた ○メディアポリシーについてはクラスや学年単位で注意喚起等は行ってきたもののSNSに関するトラブルが少なからず発生してしまっ	○挨拶はこちらからすれば返してくるもの、自ら元氣よく挨拶ができていたことまではいい ○身だしなみや時間厳守については、概ね問題はないが特定の生徒たちには乱れも見られる ○体育祭や大妻祭では生徒たちが実行委員会を中心に主体的に活動していた。その他生徒会としては海外からの来校者との交流事業など中心となって企画運営を行ってきた ○ハガキ表彰については大きな行事に特化してしまい、日常的活動に対してきめ細かく対応することができなかった ○嵐山まつりに代表される地域行事への参加や福祉施設などへのボランティアには部活動単位で参加している。また、今年初めて越生ニューサンピアとコラボレーション企画LSR活動も取り組んだ。海外との交流ではインドネシアのBPI本校校との交流、修学旅行ではハワイの現地高校及び大学生との交流が盛大に行われた ○メディアポリシーについてはクラスや学年単位で注意喚起等は行ってきたもののSNSに関するトラブルが少なからず発生してしまっ	C	○生徒会を中心として「あいさつ運動」や「身だしなみ運動」を定期的に実施して徹底していく ○生徒会の主体性、部活動の活性化を図るためにも部活動予算にメリハリをかけた予算編成を行う ○地域行事や関係機関との連携事業については入試広報部の外回りを中心に関係機関とのネットワークを構築する。国際交流については、県の国際教育旅行推進協議会及びロータリークラブやインターアクトなどの連携を中心に積極的に取り組んでいく ○探究の時間等を活用してSNSに関する防犯教室や外部講師等を開催してソーシャルスキルに係るプログラムを実施していく ○SNSに関する注意喚起を促す講演会やソーシャルスキルに係る講座を設け、生徒の意識啓発を行う
4	ほとんどの生徒が大学進学を希望し、進路実現に向けて学習に励んでいる。しかしながら、進路選択においては「行けること」にシフトしてしまう生徒が多く、「行ける学校」から「行きたい学校」へと高い志をもって進路実現を目指すことが求められているため、次の課題に取り組む。 ①志を高めるキャリア教育の質的充実 ②新入試及び新学習指導要領に対応する力の育成 ③高い志での進路実現を目指し「やり抜く力(グリッド)」の育成 ④総合的な探究の時間として系統的プログラムの実施	○生徒の高い志の育成 ○進路実績の向上 ○教員の進路指導力の向上	○進路情報を的確に発信して、進路指導部を中心とした各教科、各学年と連携した組織的な進路指導を行う。 ○模試結果のフィードバックなど客観的データをもとに学力分析を徹底して、生徒が自らの力を客観的に把握できるような指導する。 ○総合的探究の時間を活用して系統的かつ計画的なキャリアガイダンスを実施する。 ○放課後の学習体制等を充実させ学習の個別最適化を進める。 ○生徒の進路ニーズに対応したきめ細かいサポートを進める。	○キャリア教育の各種行事に参加する生徒が増えたか ○第一希望進学率が、前年度より増えたか ○進路実績が向上したか ○生徒に個別最適化が進んだか ○生徒のニーズに応じた進路サポートが充実したか ・離間大学、医学部2名以上 ・国立20名以上 ・早慶上40名以上 ・GMARCH40名以上 ・医療・看護系42名以上	○グローバルセミナー講演会については、授業の課程内での開催とし、生徒による企画・運営やワークショップなど形態を变えることで参加人数を大幅に増やすことにも内容的な充実が図られた ○大妻女子大への進学については大妻ゼミ内容充実が図られるとともに入学前の教育プログラムも充実し、入学者の質的向上が顕著となっている ○進路実績は国公立の合計が1名と激減したが、今年は特に国公立の志願者が少なく、全体的には国公立志願者は半数以下となっている ○学習の個別最適化については、校P1CTの活用が進みつつあるものの各授業における格差が明らかになっている ○推薦入学入試の結果が向上したことからも、事前指導を中心として個々のニーズに対応した指導が個別に行われているといえる	B	○キャリア教育においては、新着セミナーや進路ガイダンス、講演会等充実した事業が実施されている。グローバルリンクスでは、生徒による企画運営や主体的な参加が課題である ○大妻ゼミの充実とともにAO入試や公募推薦等々多様な入試に対応できる進路プログラムを充実させて生徒の多様なニーズに応えていく ○高1,2の進路指導を強化して進路意識を高めさせ早い時期から受験準備を整えさせるとともに生徒にもっと負担をかける授業を展開して多教科への対応ができる学力をつけていく ○学習力向上のための工夫、個に応じた個別最適化をキーワードとした授業改善が必要である
5	異校種交流や地域交流、多様な国際交流事業など本校の様々な特色ある取り組みを質的に充実させ、魅力ある学校づくりに推進することが求められていることから、次の課題に取り組む。 ①嵐山町との連携を中心に地域のランドマークとしての役割を果たす。 ②本校の教育活動を多面的・多角的に発信する。 ③地域の中学校及び教育機関との連携を一層深める。	○情報発信力の強化 ○入試広報・生徒募集活動	○ホームページのリニューアル、学校案内などのパンフレットや説明会等のリフレットの刷新 ○地域交流及び異校種交流の拡大 ○全教職員による戦略的な広報事業を推進する ○塾・中学校訪問で収集した情報を定期的に分析し、より効果的な生徒募集活動を実施する。 ○本校を知ってもらうための情報提供の場を開拓する。	○中学50名以上、高校150名以上の入学者が確保できたか ○嵐山町・比企地区・東松山市との連携事業が増えたか ○比企地区・東松山市からの入学者が前年度より増えたか ○新たな情報提供の場が開拓できたか ○メディア(新聞・テレビ)等の取り扱いが増えたか	○中学52名、高校130名(高入生96名、内進生34名)の入学者となり、当初の目標に対して中学は達成できたが高校はわずかに届かなかったものの前年20名の増加となり次年度以降につながる結果となった(昨年比中学+10、高校+29) ○今年度はオンラインやわくわくワークショップのチラシを比企地区の教育委員会、東松山市教委などの協力を得て管内各中学校に配布することができた。また、東山山ビオコンクやウエス川越で理科実験教室を開催することが全体的に参加者も増え、広報活動の活性化につながった。 ○中学校においては比企地区、東松山市からの入学者が減少(対前年10名減)したものの高校では例年並(2名増)であった。 ○新たな情報提供の場としてはホームページを刷新することができた。 ○比企アイルムコミュニケーションと連携して映画制作協力を行い2回にわたって本校を舞台とした撮影を行った	A	○過去2年連続で中学の入学者が60名を超えていたが、今年は大きく下回ってしまった。原因としては学力底辺層の入学によるライオネスミーティングの拡大が考えられる。入学者の確保も必要がある。 ○中学校や学習塾への訪問や情報提供等については戦略的な広報活動計画を立てて緊密な関係性をより強固なものにしていく ○わくわくワークショップについては、理科実験だけでなく幅広い分野において企画し、多様なワークショップとして幅広く参加者を増やしていく ○比企地区や東松山市については、今後もオール大妻嵐山で継続して取り組みを続けてほしい ○広報活動がしっかりと実施されたことが何える。また、活動は教職員全員で取り組むことが必要 ○メディアの活用はこれまで有効である ○入学者の確保と学力の維持は困難である ○国公立の志望者が少ないのが残念であるが、今後も進路指導を強化していただきたい